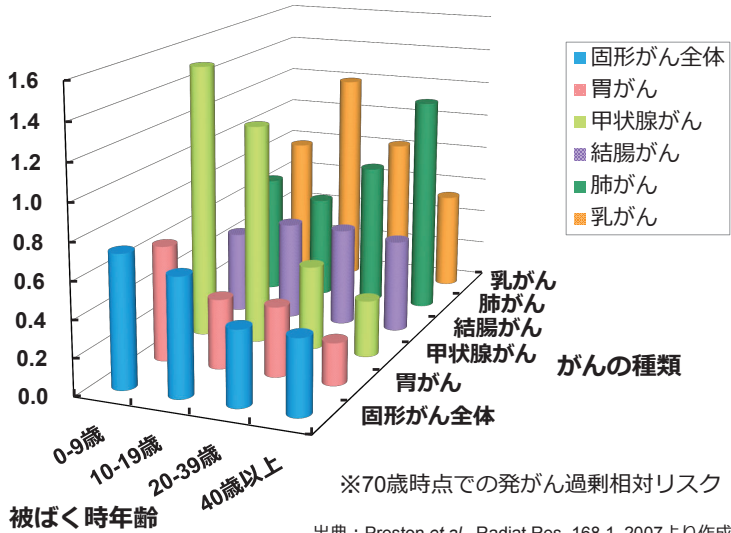




被ばく時年齢ごとの発がん過剰相対リスク

過剰相対リスク※
(1グレイあたり)



出典：Preston et al., Radiat Res, 168,1, 2007より作成

これは、原爆被爆者のデータを用いて、被ばくした時の年齢別、がんの種類別に、1グレイあたりのがんの過剰相対リスク（被ばくしていない集団に比べ、被ばくした集団ではどのくらいがん発症のリスクが増加したかを表す値）を比較した図です。被ばく時の年齢が若いほどリスクが高いもの（甲状腺がん）、40歳以上でリスクが高いもの（肺がん）、思春期でリスクが高いもの（乳がん）、年齢依存の顕著な差がないもの（結腸がん）と、がんの種類によって放射線への感受性が高い時期が異なることが示唆されます。

なお、図で示した過剰相対リスクは、70歳になった時にそれぞれの臓器の被ばくによる発がんのリスクがどのようになるかを示したものです。

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2015年3月31日